

式 辞

朝夕に吹く風には、本格的な秋の訪れを感じ取れるこの頃、本日ここに、市川三郷町町制施行五周年記念式典を挙行いたしましたところ、

公務極めてご多忙の中

山梨県総務部理事 曾根哲哉様

衆議院議員 坂口岳洋様

県議会議員 丹澤和平様 はじめ、

ご来賓各位、並びに、多くの町民の皆様のご臨席を賜りまして、誠に有難うございます。 厳かなうちに、本式典が開催され、皆様のご臨席のもと、共に「合併五周年」を祝い喜び合えますことに、心から御礼申し上げます。

行政意義は住民の満足度を高め、多様性と創造性に溢れた豊かな自治を実現することにあります。平成17年10月1日の合併以来5年、町民の一体感の醸成、また旧三町の融和に意を注ぎ、均衡ある発展に努めて参りました。

総合計画において、町の将来像を「日本一の暮らしやすさを目指して」と定め、政策としては財政の健全化を第一とし、次世代に大きな負担を残さないために、町債(町の借金)を限りなく減らしながらも、「少子化対策」、幼児・児童・生徒の「保育や教育環境の整備充実」、町立病院をはじめとする「地域医療の確立」、中学三年生までの医療費窓口無料化や65歳以上の肺炎球菌ワクチン・ヒブワクチン接種・小児肺炎球菌ワクチン接種への一部助成のほか、小学校6年生から中学校3年生までの子宮頸がんワクチン接種への全額助成など、子ども達はもちろん、高齢者や障害を持つ方も生きいきと暮らすことのできる「幅広い年代層での福祉の充実」を目指して参りました。

成果は一朝に現れるものではございませんが、最近では、町民はもとより、町外の方々からも、「市川三郷町は子育て支援に努力している」、「高齢者福祉などに、先んじている市川三郷町をもっとPRしても良いのでは」と言われるような、嬉しいお言葉を頂戴できる機会も出て参りました。

これからの本町におきましては、中部横断自動車道の促進や、リニア中央新幹線の峡南ルートに大きな期待がありますが、日本経済は、なお深刻な景気低迷が続くものと推測されます。しかしながら、「このようなピンチをチャンスに変えてこそ、町の未来は開けるもの」との信念から、本町の発展に向け、勇往堅実に行政に取り組む決意であります。今後ともより一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びになりますが、本日ご臨席を頂きました皆様をはじめ、町民の皆様のご健勝、ご多幸を心よりお祈り申し上げ、さらには、町政を町民の皆様との協働によって推進して参る決意の一端を述べさせていただき、ご挨拶と致します。

平成22年10月2日

市川三郷町長 久保眞一